

その自由で緩やかなタッチが
絵にいきいきとした力を吹き込む



表現の幅を広げてくれる ペインターの魅力

サンディエゴ州立大学でアートを学んだシェール・ペンダヴィスが、デジタルペインティングと出合ったのは、1980年代の中ごろ。Macペイント、Image Studioを使い、デジタルペインティングの腕を磨いた。その後、ペインターの開発と、ワコム社のタブレット制作プロジェクトにテスターとして参加し、20年以上にわたりペインターを使い続けているという。

今でも筆を使って実際のキャンバスに描くこともあるが、ペインターを使うこと自体を楽しんでいると語るシェール。その制作スタイルはとて自由だ。

「真っ白なキャンバスから描き始めることが多いですね。実際に描いたスケッチをスキャンして、ペインターで色付けすることもあります」
シェールにとってペインターの一

番の魅力は、描いた絵をいろいろな違うタッチで仕上げられるところだという。実際の絵画のように、最初から描き直さなくて済むのは画期的だったそうだ。確かに彼女のギャラリーには異なった画風の作品が並んでいて、ペインターを自在に使いこなせば、これだけ表現の幅が広がるということを教えてくれる。

今回取り上げた「Red Roses」は、実際にバラを観察しながら2Bペンスシルでスケッチをし、オイルブラシの中から油彩平筆とキャメルヘア丸筆を使って色の下地を作った。色を混ぜるときは、ブレンド丸筆とキャメルヘア丸筆を使い、花びらのディテールは、小さい油彩プリスル(中)を使ってハイライトで描いた。「画に生氣を持たせるために、自由に緩やかに描くように心掛けました」というシェールの言葉通りに、バラの花からはいきいきとした質感と温かみを感じられる。
シェールは初心者にも、まずブラシ

をたくさん使ってみること。それに慣れたらテクスチャーやパターンが違う紙をいろいろ試してみることを勧めている。「始めたばかりのころは機能が膨大で迷うかもしれませんが、その分楽しさも無限大です」

ペインターをうまく使いこなせば、シェールのように自身の創造性を飛躍させられるかもしれない。そんな夢が広がってくる。

シェール・ペンダヴィス

(Cher Pendavis)

カリフォルニア州サンディエゴ在住。サンディエゴ州立大学で芸術を専攻。1980年代からデジタルペインティングを始め、この分野のバイオニア的存在。作品はアメリカをはじめ、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界中で紹介されている。1993年に執筆を手掛けた『Painter Wow! Book』は、現在10th Editionまで版を重ねる。各地でワークショップも行い、ペインターの楽しさを広く伝えている。

www.pendavis-studios.com



使用したブラシ：
油彩平筆、ブレンド丸筆、キャメルヘア丸筆、油彩プリスル(中)